

林惱煩遊

春のお彼岸 法要

左記のとおり春季彼岸会総供養
法要をお勤めいたします。皆様お
誘いあわせの上賑々しく御参詣
下さい

三月二十三日（月）

午前十一時半より

*法話

*おとき（婦人会の皆様の手作り
のお食事です）

*衆僧総供養読経

*三月十七日から二十三日までお彼岸で
す。この期間お寺もしくはご自宅での読経
供養を致します。ご希望の方はご予約くだ
さい。

*尚二十日（金）、二十一日（土）二十二
日（日）の3日間は、お寺にお参りの方に
限り、予約は不要です。ご参詣になった順
にお勤め致します。その他の日は住職、副
住職共に外に出ていることが多いので必
ず時間の予約をお願いいたします。

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間中必
ずお参り下さい

お彼岸には全く無関係だけど実はそのもののお話。

先日久々に「お坊さんですよね、髪の毛があるお坊さん始めてみました」と 狭山のガソリンスタンドの人に言われました。久々に言われて改めて「確かに世間一般の人は僧侶イコール剃髪と認識しているのだ」と思いました。

だとすると私とご縁のあった皆さんは初めてお会いした時どう思ったのだろう。ある時はロン毛のポニーテール、ある時は金髪、ある時はポマードべつりのオールバック、またある時は寝癖が取れないぼさぼさ頭、まあどう思われようと私は私なのでどうでもよいのですが。まあ、人間五十九年もやっていると凶々しくなるもんです。ただ、皆さんに知って頂きたいのは、ロン毛であろうと金髪であろうと傍から見れば鬻鬻者でも私はずっと僧侶でありました。外見で言えば僧衣を着用しているときもジーパンに革ジャンの時も寝巻の時も。

浄土真宗の教えは在家(在世間)の仏教徒の為にあります。日々、世間の人としての生活を送りながら釈尊の教え「仏法」を立場として生きる者の教えです。

只、これがとっても難しい。私の場合、妻から再三指摘されますが身勝手に調子に乗りやすい体質なわけで、何しろ還暦を目前にしながら未だに「人生ノリと勢いだぜ！」なんて

ほざいているので、人生脱線しがちです。問題はやってる本人は脱線していることに気が付いていない事で、それを気づかせてくれるのがお経やお聖教(祖師や先学の教え)であり、具体的には妻や娘、ご縁を頂いている方々のお叱りや、ご批判なわけです。

親鸞聖人はご自身を「非僧非俗。僧にあらず、俗にあらず。」と表白なさいましたが、私の場合は「僧俗ごっちゃ煮」です。でも、俗だけなら暴走してどこに行くかわかりませんが仏法の働きは脱線する私を見かねて、さまざま縁として軌道修正をしてくれているようです。いつまで経っても釈尊の教えに領けず、むしろ、年々我執が強くなり教えから遠ざかってしましますが、でもそれを気づかせてくれる縁に今まさに仏法が働きかけてくれていることを強く感じます。

そう云う訳でどっぷり俗につきりながらそれでも仏教徒として生きて死んでいく姿を皆さんに実況中継出来れば面白いな。

お彼岸は、お墓や遠くの「場所」ではなくこの私に、皆さんに働きかけてくれる力です。

合掌

住職

ひがん しがん じようど えど
彼岸と此岸、浄土と穢土

早いもので、もう春のお彼岸です。暑さ寒さも彼岸まで、といいますが、だんだんこの言葉も怪しくなってきましたね。特に暑さのほうですが、寒さも今年のような暖冬だと、なんだかいよいよ地球環境は温暖化によって危なくなっているな、と、わたしのような鈍感でヌボーと生きている人間でも考えさせられます。と、因みに、このメチャクチャな娑婆を離れてお浄土に行ったら、楽ちんでいいだろうなあ、なんてことはないので、実は(〇〇)、残念ながら。

彼岸とは浄土。そこは、仏の国ではなく、だれでも行ける、そして仏にしちゃう国。そこで、仏になると、釈迦が弟子に告げたように、働く仏さまになるのです。(お釈迦さんは、悟りを得た弟子に、「直ちにこの場からさり、おのおの仏として救いの道を説いて回れ」と言っているのです。仏さんは、清らかな温泉に浸かりながら、奏でられる妙なる音と芳しい香りに包まれてのんびり過ごしているわけではないのですよ)

此岸とは穢土。わたし達が、今暮らすここです。戦争、差別、環境破壊が止まず、他人を見れば盗人に見えてきてしまうような今の社会、妬み・嫉みが止まない、「働かざる者食うべからず」「生産性がない人間は・・・」なんて言葉を平気で吐き出す社会、「平和のために戦う」「社会平和を乱すもの」に人権はない「なんて寝ぼけたことを識者という人間が当たり前」に声高に言う世界、命の平等どころか同じ生体の人間同士の人権すらまもれない、そんな今のわたし達の暮らすところです。

浄土真宗とは、浄土を真実の宗(むね)、つまり、根本課題とするという宣言です。浄土とは、あらゆる人々との自由で平等な交わりを象徴する世界です。そこを真実の宗(むね)とするとは、自由を奪い平等を侵す、平和を破壊する私たちのこの娑婆世界を決して真実としないということ。それは、この世を穢土としてどこまでも批判的に見いだしていくことです。(尾畑文正)

お浄土は、わたし達の暮らしが、正解ではなく、答えを出すことを目的とするのではなく、いつでも疑問を持ちながら、互いに問い合いながら暮らしていくこと、共生・共存を促す世界です。そこを一緒に見て、感じて、一緒に穢土を歩んでくれているのが仏さまです。お浄土は、道標であり、根源的価値基準です。春のお彼岸です。仏さまと一緒に、少しでも自分が暮らす「いま・ここ」を、お浄土を基準に、仏さまの願いを基準に、見つめ直してみましよう。

あらゆるいのちに上下はない。あらゆるいのちは五分である。あらゆるいのちは理由なくただ在るだけで尊い。 副住職

歎異抄を読み聞かす会「グリーンフケアの会」開催日変更のお知らせ
都合により、本年度のグリーンフケアの会の開催日を左記に変更させていただきます。勝手をお許しください。

記

3月3日(火)・4月3日(金)・5月3日(日)・6月3日(水)

7月3日(金)・8月休み・9月5日(土)・10月5日(月)

11月5日(木)・12月5日(土) いずれも午後2時より

ご確認のうえ、参加ください。お待ちしております。

*最近「住職痩せました？」とよく言われる。ご心配頂き
ありがとうございます。安心して下さい！確かに痩せまし
たが糖尿の薬のお蔭です。そして単なる加齢で頬がこけてる
だけです。薬は食べた糖分の70パーセントを尿として排出
してくれる優れたもので、確実に痩せていきます。ただ、トイ
レが凄く近くなるのが難点ではあります。今は出先でもコン
ビニが沢山あるので助かります。コンビニさんありがとう！
ですので、糖尿、痛風、高血圧と生活習慣病3連荘来てます
が至って元気です。

*卯美美(娘)がもうじき二十歳になる。ちよつと前まで
「この子が二十歳になると、俺は還暦」なんてずつと先のよ
うに思っていたが気が付いたらなつてしまった。だからつて
私自身はあまり年齢を考へる事がないので還暦になるから
と言つて特段変わらないが、たまに帰省する娘の外見が大人
びているのにはびっくりする。この先もどんどん変化するの
だろう。実に面白い。

住職からのお願ひ

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬
儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。そ
の為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有
ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事
です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

●聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をや
っています(1月、8月はお休み) 2時間ほど

●歎異抄を読み聞く会「微妙音」 3月3日、4月3日、
5月3日、6月3日、9月以降は毎月5日
午後2時より2時間ほど

一月と八月はお休み

●白色白光の会(婦人会) 毎月第2木曜午後1時
お経(正信偈)の練習と法話と茶話会

●仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」

第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時間
参加費三百円(初回のみ別途テキスト代千円)

照之山順正寺

練馬区石神井町3-17-4

03-3996-2064